

えとのほん たつ

『龍』（えほん）

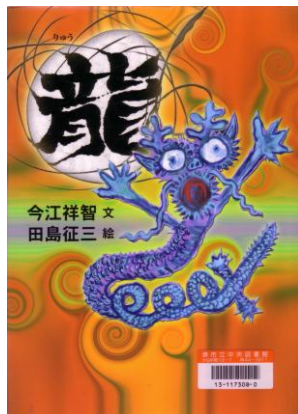
今江祥智／文 田島征三／絵

B L 出版社

りゅう さんたろう からだ
龍の三太郎ときたら、体になあわず
きがよわい。いつも人に見つからないよ
うに、沼の底でひっそりくらす。

あるとき、村人に見つかって、こわが
られてしまう。そのうえ見物客がきて
おおよわ いちにちいちど で むね くうき
大弱り。一日一度 沼から出て、胸の空気
のいれかえもできやしない。だんだんが
まんできなくなってきた三太郎。ところ

が、きゅうにしずかになった。よろこんで沼の外にとびだしたら
ら…。

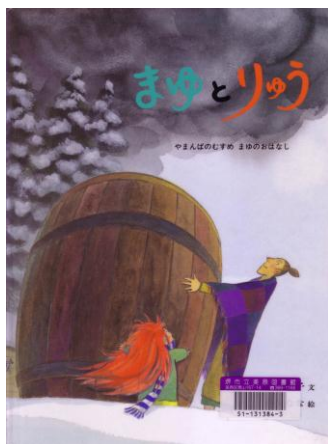


『まゆとりゅう』（えほん）

富安陽子／文 降矢なな／絵 福音館書店

まだつめたいはるのあさ。やまの
ゆきが とけはじめました。

やまんばのむすめのまゆと やまん
ばかあさんは、りゅうをむかえるた
め、ヤマモモのおさをよういしま
す。りゅうは はるいちばんのあめ
をふらせます。やまのゆきはすっか
りとけて、ほんとうの はるが やっ
てきました。



『雨をよぶ龍』（えほん）

秋山とも子／文・絵 童心社

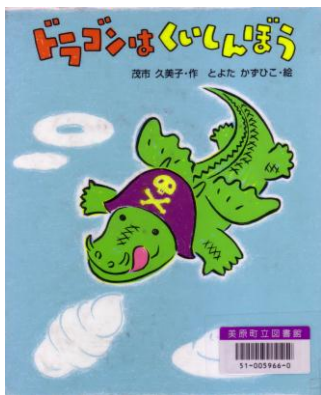
ちいちゃんとおとうとのかんちゃんが住む町では、4年^{ねん}にいちどきよだいな龍^{りゅう}を作^{つく}って雨^{あま}ごいをする行^{ぎやうじ}事があります。あつ^{なつ}い夏^ひの日、町の人^{ひと}たちがあつまり、たけやむぎわ^{からだ}らで龍の体を作りました。“りゅうのかみさま”は池^{いけ}をめざして町をねりあ^{てん}ります。さいごには天^{てん}にのぼ^{あめ}っていき、黒^{くろ}い雲^{くも}と雨^{あめ}をよぶといわ^いれているのです。



『ドラゴンはいしんぼう』（よみもの）

茂市久美子／作 国土社

こ^こ子ぎつねのきいくんのマッチばこにはひみつがあります。なんと、なかにほんもののドラゴンがすんでいるのです。むかし、かいぞくのたからをぬすんだばつで、とじこめられているのです。



あるとき、きいくんは、そのかいぞくドン^し氏がドラゴンをマッチばこから出^だしてやろうとしていることをし^し知^しります、きいくんとおじいさんは

ドン氏^あに会いにいきます。

『こぞうさんとりゅうのたま』（えほん）

はせがわかこ／ぶん・え 大日本図書

なきむしのこぞうさんは、おしよ
うさんと「もうなかない」とやくそ
くした。あるひの かえりみち、あ
めがふってきて こころぼそくなっ
てきたこぞうさん。けがをしたぼう
やとであい、てらにつれてかえると
ちゅう、かわでおぼれてしまった！
こぞうさんたちは、ぶじにてらにか
えることができるかな。



『水の伝説』（よみもの）

たつみや章／著 講談社



こうたろう きんそんりゅうがく しらみずむら
光太郎は山村留学して白水村にやっ
てきた。寄宿先の龍雄ともなかよくなっ
たが、川で光太郎だけがカッパに会って
から、二人のなかはぎくしゃくする。ぼ
くはなんの役にも立たない…とおちこん
だ光太郎。雨で山崩れに苦しむ村のため
に、せめて役立とうと、自分の命を龍の
いけにえとしてささげようとする。

ほかにもいっぱい

えほん

『かぜっぴきのドラゴンたち』

S・M・トマス／ぶん J・プレカス／え

評論社

『とうさんはタツノオトシゴ』

エリック・カール／さく 偕成社

『ドラゴンだいかんげい？』

デヴィッド・ラロシェル／文 脇山華子／絵・描き文字

徳間書店



よみもの

『ドラゴンが^{きょうしつ}教室にやってきた！』

ジュン・カウンスル／^{さく}作 日本標準



ちしきのほん

『ドラゴン 飼い育て方』(388/ト)

ジョン・トプセル／著 ジョーゼフ・ニグ／編集 原書房

さかいしりつとしょかん
堺市立図書館

へいせい ねん がつはっこう
平成24年1月発行

本はともだち



堺っ子読書活動